

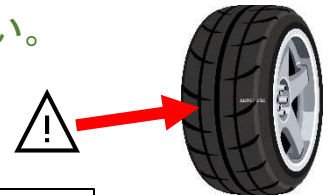


豚熱発生予防対策の強化徹底をお願いします

昨年末より、豚熱ワクチン接種農場においても豚熱発生が継続していることを受け、7月7日、拡大豚熱疫学調査チームにより今後の発生予防対策がまとめられました。豚飼養者のみなさまは、以下の点を再確認して、引き続き飼養衛生管理基準の遵守徹底をお願いします。

適切な車両消毒の実施

- ・タイヤの溝等にウイルスで汚染された土壌が残っている場合があるため、消石灰帯のみによる消毒では不十分です。「十分な圧力の」動力噴霧器等でタイヤに付着した泥等の有機物を除去したうえで、消毒を行ってください。



豚舎毎の作業着・手袋・長靴の交換及び交差汚染防止

- ・作業着・手袋・長靴に付着したウイルスを持ち込んでしまわないように、豚舎毎の交換を徹底してください。すのこや腰掛け程度の高さのある台を利用して、物理的に交換前後の動線が交差しないようにするのも効果的です。
- ・敷料は豚が直接触れる物です。保管する際は、野生動物が触れたり、糞等で汚染されないようブルーシートや建屋で覆ってください。



フン注意

免疫を獲得していない豚群への対応

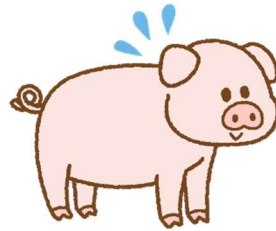
- ・ワクチン接種前の離乳豚等、免疫を獲得していない豚のいる豚舎は豚熱感染のリスクが高い豚舎といえます。出入りする際は一層意識して、靴や衣服の交換及び、手指だけでなく、豚舎に持ち込む全ての物の消毒の徹底をお願いします。
- ・野鳥侵入防止のため、豚舎開口部には防鳥ネットを設置してください。
- ・離乳豚、肥育豚の健康観察と、異常が認められた際は早期通報をお願いします。

消毒液の交換頻度

- ・豚熱発生農場において、消毒薬の選択、使用濃度が不適だった事例も報告されています。消毒薬は土壌や糞便等の有機物により効果が減弱するため、汚れていなくても定期的に交換してください。

農場内作業動線及び作業手順

- ・屋外では、どこにウイルスが潜んでいるかわかりません。その上を豚が歩くのは非常に危険です。豚舎間を移動させる際は、屋外の通路や敷地内を歩かせたりせず、可能な限り「消毒済みのケージ」で運搬してください。



教育訓練等

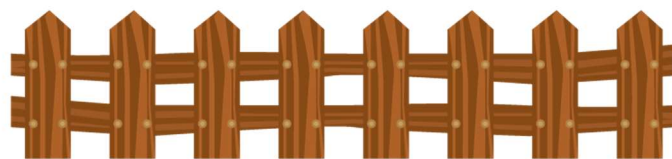
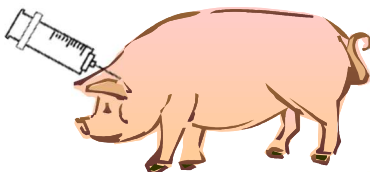
- ・確実な衛生対策のためには、作業に携わる1人1人が毎日漏れなく、同じ方法で実施できなければなりません。従業員にも定期的な教育や訓練を実施するとともに、衛生対策の実施状況を把握するため、消毒薬の交換記録簿を作成するなど、確認手段を設けましょう。

適切な豚熱ワクチン接種

- ・農場は、ワクチンが有効に機能しなかった場合に備え、接種日・接種者等の記録をお願いします。
- ・接種適期は家畜保健衛生所の実施する免疫付与状況確認検査の結果、離乳期から肥育期に係る豚舎移動の時期及びそれぞれの豚舎での暴露リスクを踏まえて検討する必要があるため、家畜保健衛生所による立入検査など必要な指導を確実に受けるようお願いします。

野生イノシシの陽性確認を踏まえた農場侵入リスクの認識

- ・野生イノシシの侵入を防ぐため、防護柵を設置してください。
- ・陽性イノシシそのものではなく野生動物などを介して感染する可能性があるため、イノシシのいるいないに関わらず、周辺環境中に存在するウイルスの侵入リスクが高いことを認識し、衛生管理の徹底をお願いします。



異状が見られた場合は速やかに通報をお願いします！

青森家畜保健衛生所(平日 8:30~17:15) 017-764-1744

緊急用携帯(平日 17:15 以降、土日祝日) 090-2274-0474